

20230905 「有機農業への転換が肥料問題を解決する」

日本は化学肥料の原料をほぼ 100%輸入に頼っているという現状についてご紹介しました。

そもそも、化学肥料や化学農薬は、土壌の有機物を衰えさせ、生息する微生物の活性化を阻害します。それに対して、有機農業は、有機物を肥料として活用し、土壌の微生物を活性化させ大地を肥沃にします。有機農業への転換は、化学肥料や農薬を減らすばかりか、土壌を豊かにし、持続可能でそれを食する人を健やかにします。日本では、2021年に環境保護や持続可能な意識の世界的高まりに背中を推されて、有機農業への転換の戦略が示されました。達成年度目標は2050年です。

目標内容は以下のとおりです。

- ・農林水産業におけるCO2ゼロエミッション実現
- ・化学農薬使用量50%削減
- ・化学肥料使用量20%削減
- ・耕地面積に占める有機農業取組面積割合を25%まで拡大

実際に有機農業に挑戦されている農家の体験が示すように、化学肥料から有機肥料への転換にはとても時間と粘り強さが必要です。有機農業転換によるリスクには「補助金」などの対応をしなければ、恐ろしくて誰も一歩踏み出すことはできないでしょう。しかし、化学肥料を100%輸入に頼っている現状を考えれば、早く舵を切っていないと、本当に近い未来にとんでもないことになってしまう懸念があります。

「夢みる小学校」のオオタヴィン監督の映画、「いただきます2」という映画があります。吉祥寺などでこの夏も上映された他、全国各地で自主上映されています。そこで、有機農業に取り組む農家の方が語っていました。

「ニンジン畑も歩いてたらふっかふかでしょ。土つくってしまえば、美味しくなって楽になるんですから。」

また、農薬使用についてもこんなことを話されていました。「野のいわゆる雑草と畑の野菜があったら、虫は野菜の方を真っ先に食べます。それは、畑の野菜が『弱い』からです。自然は弱肉強食ですから、弱いものは淘汰されるんです。自分の力で芽を出し自力で育っていこうとする雑草の逞しさには、『生きるもの』としての生命力で敵わないのです。(趣意)」そして、強く逞しい野菜は「土づくり」が肝要だと結論されます。

もうここまでくると、野菜作りも人を育てるのもその境はないなと心から思います。ところで、この「いただきます2」の舞台は、保育園や小学校です。本校でもさくら学級が「さくら農園」で植え付けから収穫までを体験させています。5年生の稲もしっかり実になり、稲穂が垂れてきました。作物を育てる体験的な学びを通して、私たちの命が「食」と「食」をつくってくれている人と自然によって支えられていることを実感的に学んでいってくださることを期待しています。